

■今月のメッセージ(2011年4月)

日本銀行富山事務所長
水上 誠一

この度の東北関東大震災の犠牲者の方々に追悼を捧げるとともに、避難生活が続く皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、福島原発関連で献身的に作業をして頂いている方々には感謝の言葉もありません。

今回の大震災による被害は、全貌すら把握できない規模となりましたが、多数の国内・海外からの温かい援助が集まっている中で、一部の海外大衆紙では、東京の状況を「核の大災害に怯える街。放射線レベルは通常の10倍になった。人通りはなく、食料、水、ガソリンは尽きてしまった。」と伝え、あたかも首都から住民が消えてゴーストタウンと化し、日本全体が沈没したかのようです。また、あの有名なメディアにも”mass exodus”(集団脱出)や”the Apocalypse”(＜地獄の？＞黙示録)といった誇張された表現が踊っています(日本のメディアでは日本を称賛する報道が紹介されがちですが、こうした問題ある報道を集めたサイトもできるほどネガティブな情報も飛び交っています)。

しかし現実には、こうした状況にあっても、世界の人々が一様に驚いている忍耐力と不屈の精神をもって、被災地の方々の懸命な再建努力を含めて、日本経済や金融市場は動き続けています。今、我々一人一人が心すべきことは、被災地への支援の継続とともに、この日本経済や金融市場の動きを止めないことではないでしょうか。

先ほどの海外報道を「誇張」としたのも、嘘とは言い切れないからで、銀座の人出はまばらで、飲料水のペットボトルと牛乳は売っていませんし、一方では、大きな募金箱のとなりで出荷制限のない関東地方の野菜が山積みになって投げ売りされているのも事実です。

また、どなたかが「中止不況」という言葉を使っていましたが、これだけ自粛ムードが広がると、ただでさえ厳しかった日本のサービス業の廃業が相次ぐことになり兼ねません。今後、晴れて海外観光客が日本に戻ってきても、魅力半減でしょう。

今は、被災地に思いを寄せ、人的・物的・金銭的な支援をしつつ、これまでの生活をこれまで通り全うすることが、日本経済を維持し、復旧への活力を持ち続けることに繋がるのです。また、少しずつ動き出した被災地の産業についても、補助金や補償金で報いるのが第一であってはならず、その商売の売り上げが立つことこそが、精神的な意味でもそうした人々への本当の支援になると考えます。皆さんの力で「中止不況」「風評倒産・廃業」を阻止するようお願いします。

私は、規模が桁違いとはいえ、十勝沖地震と宮城県沖地震を経験しましたし、今回も仙台在住の親類などが被災したこともあって、今回の大惨事には言葉を失います。現実を受け止め、それぞれの立場の人々が、自分でできる貢献を考えることは素晴らしいことです。衣食が曲がりなりにも足りてくると、避難所の方も本を読みたくなるのでは、と想像していたら、あるネット本屋さんが、メッセージを付けて皆さんから集めた本を会社負担で被災地に届けると名乗りを上げました。チーム日本の中で自分に何ができるか、今日も考えましょう。